

I 事業報告書

1 処務の概要

定款並びに関係法令等に基づく運營業務の実施状況等は次のとおりです。

(1) 重要な処務事項

年 月 日	処 務 事 項
令. 4. 4. 13	令和4年度水産振興調査研究事業検討委員会 (諫早市役所)
5. 27	監事による決算監査 (当基金事務所)
6. 6	令和4年度第1回定時理事会 (ホテルグランドパレス諫早)
	1) 令和3年度事業報告書及び収支決算書 承認
	2) 令和4年度事業計画の補正(案) 承認
	3) 令和4年度補正予算〔第1回〕(案) 承認
	4) 理事及び監事の改選にかかる候補者の推薦(案) 承認
	5) 評議員の改選にかかる候補者の推薦(案) 承認
	6) 令和4年度定時評議員会の日時、場所及び目的である事項(案) 承認
	7) 理事長及び専務理事の職務執行状況報告
6. 29	令和4年度定時評議員会 (ホテルグランドパレス諫早)
	1) 令和3年度事業報告
	2) 令和3年度収支決算書 承認
	3) 理事及び監事の改選
	○理 事 大石賢吾、大久保潔重、金澤秀三郎、友永智、田尻虎夫、 深山清喜、宗圭之介(7名選任)
	○監 事 大谷幸仁、小松仁(2名選任)
	4) 評議員の改選
	○評議員 山下博史、綾香直芳、川口和宏、藤山哲、松橋秀明、 高尾茂、吉田博幸、荒川敏久、中道正春(9名選任)
	5) 専務理事の報酬金額 承認
	6) 令和4年度事業計画書及び収支予算書の報告
6. 29	令和4年度第1回臨時理事会 (理事の提案による書面同意)
	1) 理事長、副理事長及び専務理事の選定
	○理 事 長 大石賢吾
	○副理事長 大久保潔重
	○専務理事 宗圭之介

年 月 日	処 務 事 項
7. 20	令和4年度ひとが行き交う諫早湾づくり助成事業採択委員会 (書面決議)
8. 2	令和4年度水産振興助成事業の応募に対するヒアリング (諫早湾漁協 本所)
8. 9	令和4年度財政援助団体等監査 [県監査事務局] (当基金事務所)
8. 22	令和4年度第1回水産振興助成事業採択委員会 (書面決議)
9. 29	令和4年度第2回水産振興助成事業採択委員会 (書面決議)
12. 21	来年度要望事業等ヒアリング (諫早湾漁協 国見支所)
	同 (諫早湾漁協 瑞穂支所)
12. 22	同 (諫早湾漁協 本所)
令. 5. 1. 11	令和4年度財政援助団体等監査 [県監査委員] (当基金事務所)
1. 16	令和5年度基本財産一部処分限度額についての協議 (長崎県庁)
1. 17	同 (諫早市役所)
1. 18	同 (雲仙市役所)
2. 13	令和4年度第2回臨時理事会 (理事の提案による書面同意)
	1) 令和5年度基本財産一部処分限度額 (案) 承認
	2) みなし決議方式による令和4年度第1回臨時評議員会の目的である事項(案)承認
2. 28	令和4年度第1回臨時評議員会 (理事の提案による書面同意)
	1) 令和5年度基本財産一部処分限度額 (案) 承認
3. 29	令和4年度第2回定時理事会 (ホテルグランドパレス諫早)
	1) 令和5年度事業計画書 (案) 及び収支予算書 [正味財産増減計算ベース] (案) 承認
	2) 令和5年度資産運用管理方針 (案) 承認
	3) 会計規程の一部改正 (案) 承認
	4) 理事長及び専務理事の職務執行状況報告

(2) 申請、提出、届出に関する事項

文書年月日	提出先	事項	承認・完了日	根拠となる法令等
令.4. 4. 1	長崎振興 局長	法人県民税の減免について（申請）	令.4. 7. 20	長崎県税条例 第16条
4. 1	諫早市長	法人市民税の減免について（申請）	7. 28	諫早市税条例 第51条
5. 6	長崎地方 法務局	理事及び代表理事の変更登記 （申請）	5. 6	法人法(※1) 第303条
5. 12	県知事	理事及び代表理事の変更登記の 完了について（届出）	—	認定法(※2) 第13条第1項
6. 15	県知事	事業報告等に係る提出書について （提出）	—	認定法 第22条第1項
7. 14	長崎地方 法務局	評議員、理事、代表理事及び監事 の変更登記（申請）	7. 14	法人法 第303条
7. 25	県知事	評議員、理事、代表理事及び監事 の変更登記の完了について（届出）	—	認定法 第13条第1項
令.5. 3. 31	県知事	事業計画書等に係る提出書につい て（提出）	—	認定法 第22条第1項

(※1) 法人法：「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」

(※2) 認定法：「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」

(3) 役員等に関する事項

1) 役員

理事 規定 5名以上10名以内
現員 7名

監事 規定 2名以内
現員 2名

(令和5年3月31日現在)

役職名	氏名	職名等
理事長	大石賢吾	長崎県知事
副理事長	大久保潔重	諫早市長
理事	金澤秀三郎	雲仙市長
同	友永智	有識者
同	田尻虎夫	有識者
同	深山清喜	有識者
専務理事	宗圭之介	(兼事務局長)
監事	大谷幸仁	諫早市会計管理者兼会計課長
同	小松仁	雲仙市会計管理者

2) 評議員

評議員 規定 5名以上10名以内
現員 9名

(令和5年3月31日現在)

役職名	氏名	職名等
評議員	山下博史	長崎県議会 農水経済委員長
同	綾香直芳	長崎県農林部長
同	川口和宏	長崎県水産部長
同	藤山哲	諫早市副市長
同	松橋秀明	雲仙市副市長
同	高尾茂	有識者
同	吉田博幸	有識者
同	荒川敏久	有識者
同	中道正春	有識者

2 事業の概要

諫早湾地域における水産振興や地域振興に寄与するため、令和4年度事業計画書に基づき、水産振興のための助成事業及び調査研究事業並びに地域振興のための助成事業等を、長崎県の指導・監督、諫早市及び雲仙市の協力のもと、次のとおり実施しました。

(1) 公益目的事業1「魅力ある諫早湾水産業創出支援事業」

1) 助成事業

諫早湾地域における水産資源の維持・増大又は新たな定着化を図るため、海域特性に応じた水産振興に資する取組みを公募して対象事業を決定（「3 附属明細書」参照。）し、次のとおり助成を行いました。

魅力ある諫早湾水産業創出支援事業助成金	助成件数	助成額合計
	16件	26,738,547円

【明細書（助成内容等）】

① 種苗購入・放流等への助成

諫早湾の主要生産物であるアサリ、カキの増殖のため、種苗の購入・放流等に対し、県の「諫早湾水産振興特別対策事業」を活用し、対象事業費の20%以内で助成金を交付しました。

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (小長井本所)	アサリ・カキの種苗購入 (アサリ133,805kg、カキ1,833連)	43,679,150	8,735,830
同 (瑞穂支所)	アサリ・カキの種苗購入等 (アサリ13,500kg、カキ3,740連、網袋2,000枚等)	11,677,364	2,335,472
同 (国見支所)	アサリの種苗購入等 (アサリ18,200kg、砂利チップ 5m ³)	5,508,300	1,101,660
合計	3件	60,864,814	12,172,962

※諫早湾水産振興特別対策事業負担率基準（県60%、市15%、基金20%、漁協5%）

② 漁場改良整備等への助成

諫早湾内漁業の基盤となるアサリ漁場の覆砂や防御網設置作業などの事業に対し、県の「諫早湾水産振興特別対策事業」（負担割合は前出のとおり。）を活用し、対象事業費の20%以内で助成金を交付しました。

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (小長井本所)	アサリ漁場覆砂・防御網設置 (砂 2,766 m ³ 、防御網 126 反、ロープ 126 丸)	12,261,000	2,452,200
同 (小長井本所)	アサリ漁場耕耘 (耕耘面積 854,464 m ²)	6,723,928	1,344,785
同 (国見支所)	アサリ漁場覆砂 (砂 700 m ³)	2,940,000	588,000
合計	3件	21,924,928	4,384,985

③ カキの生産量拡大及び水産物の販売力強化への助成

カキ養殖は諫早湾における主要漁業に発展し、水産振興の重要な役割を担っています。カキの生産量拡大のための取組みに対し、県の「ながさき型マーケット・イン養殖産地育成事業」及び「持続可能な新水産業創造事業」を活用し、対象事業費の25%以内で助成金を交付しました。

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (小長井本所)	【ながさき型マーケット・イン養殖産地育成事業 活用】 カキ養殖筏1基設置 (25.6m×12.04m) [鋼製 改良型]	18,607,300	4,651,000
同 (瑞穂支所)	【持続可能な新水産業創造事業 活用】 カキ養殖筏2基設置 @ (22m×12m) [コンポーズパイプ 強化型]	13,822,000	3,455,000
合計	2件	32,429,300	8,106,000

※ながさき型マーケット・イン養殖産地育成事業負担率基準 (県50%、市20%、基金25%、漁協5%)
持続可能な新水産業創造事業負担率基準 (同)

④ タイラギ生育観察調査への助成

諫早湾漁協が湾内全域で実施するタイラギの生育状況の観察調査事業に対し、県の「諫早湾水産振興特別対策事業」(負担割合は前出のとおり。)を活用し、対策事業費の20%以内で助成金を交付しました。(助成金は、諫早湾漁協の本所及び支所が所属する市単位で交付申請手続。)

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (小長井本所)	タイラギの生育状況を把握するため、9月から3月にかけて、潜水調査(1~2回/月)を行い、生貝数	964,000	192,800
同 (瑞穂・国見支所)	や遺貝数、海底の状況を観察調査。 (北側8回、南側8回) 【調査点 全40地点】	1,204,000	240,800
合計	2件	2,168,000	433,600

⑤ 漁業協同組合が主体的に行う増養殖・加工開発等の取組みへの助成

諫早湾漁協が主体となって取り組む増養殖や加工開発等、及び、基金の調査研究事業で得た成果をさらに高めるための適地試験等に対し、対象事業費の50%以内で助成金を交付しました。

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (小長井本所)	カキ・ノリを使ったレトルトカレー製品開発試験 (試作・保存試験・栄養成分検査・パッケージ等)	967,555	475,000
同 (瑞穂支所)	ヒトエグサの養殖試験 (未利用漁場の有効活用及び新規生産物の開拓)	277,227	138,000
同 (瑞穂支所)	カキの養殖比較試験 (未成熟貝の沖合域での肥育比較試験)	307,500	153,000
同 (瑞穂支所)	天然あさりの安定生産調査 (天然稚貝の採苗・育成手法等の検討)	128,250	64,000
同 (国見支所)	天然あさりの安定生産調査 (天然稚貝の採苗・育成手法等の検討)	222,640	111,000
合計	5件	1,903,172	941,000

⑥ 漁業協同組合への定額助成

諫早湾漁協からの要望の中で、県・市の補助は受けられないが諫早湾の水産振興のために有用と判断される事業や経費について、70万円を上限として助成金を交付しました。

単位：円

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
諫早湾漁協 (瑞穂支所)	給油施設整備 (軽油・重油タンク塗装、部品交換) 蓄養施設整備 (冷凍庫パッキン・電熱線交換)	822,400	700,000
合計	1件	822,400	700,000

2) 調査研究事業

諫早湾における水産資源の維持・増大又は新たな定着化のためには、増養殖技術の向上を図ることが重要です。そのため、諫早湾漁協、長崎県・諫早市・雲仙市の水産部門職員及び当基金の役職員で構成する「水産振興調査研究事業検討委員会」(「3 附属明細書」参照。)の審議を経て、令和4年度は次の[1]～[2]の調査研究に取り組みました。

調査項目	経費合計
[1] アサリ増養殖技術の開発試験	4,245,884円
[2] 天然稚貝を用いたマガキの振り子式バスケット養殖試験	

[1] アサリ増養殖技術の開発試験

(背景・ねらい) アサリはカキとともに諫早湾内漁業の主要魚種であり、ピーク時には1,000トンを超える生産量でしたが最近では低迷しています。そこで、平成25年度から瑞穂地区と小長井地区においてアサリの着生・成育に効果的とされるアサリ採苗袋の設置試験の取組を開始し、令和4年度は令和3年度に続き、採苗袋での稚貝を調べながら採苗場所の適地や地盤高などの検討を行っています。

1) アサリ採苗袋の設置効果試験(継続分)

<瑞穂地区>

(調査方法) 瑞穂管内4地区(古部、大正港、伊古、長浜)の潮位表基準面で CDL+150cm、+100cm、+50cmの地盤に設置していた1.2分目60×60cm網(小砂利10kg内在)の採苗袋で稚貝生息調査を行った。

(調査方法) 全域的には大正、伊古の各+50cm地盤高で多い個数の稚貝が見られたが、伊古では前年度も多かったことから、伊古のほうが採苗ではより適地と考えられた。

<小長井地区>

(調査方法) 長里地区の養殖場縁辺滲筋側では潮位表基準面(CDL)+110cmでは砂利及び同等大の人工基質材を内在する2種を、同場沖側部(CDL)+90cmでは砂利サイズ(4~5mmと5~6mm)で2種の生息調査を行った。網袋のサイズ等は瑞穂地区試験と同じ。

(調査結果) 沖側の方が生存数の拡大が大きい傾向にあり、滲筋での基質別で生存数の変動経過の特段の差異は無く、沖側では大砂利で生存数拡大が大きかった。生息数は全体的に瑞穂に比較し稚貝数が低調であり、小長井側では別地区でも砂利を用いた採苗の検討が必要と考えられた。

表1-1 瑞穂側での採苗袋設置効果試験における1袋当たりの平均殻長と生存個数の推移

	瑞穂・古部						瑞穂・大正						瑞穂・伊古						瑞穂・長浜					
	+150cm		+100cm		+50cm		+150cm		+100cm		+50cm		+150cm		+100cm		+50cm		+150cm		+100cm		+50cm	
	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数	殻長 (mm)	生存 個数
R4年5月	23	157	24	142	13	13	26	37	23	45	22	115	24	69	25	79	23	446	21	133		0	26	59
R4年6月	24	155	27	137	15	13	24	39	19	68	21	203	23	89	25	89	23	423	24	128		0	24	81
R4年7月	26	154	27	135	16	23	25	42	23	66	22	237	25	77	26	92	28	398	26	127		0	25	74
R4年9月	27	129	29	127	16	41	32	28	28	68	27	240	26	84	29	84	25	324	28	105	11	1	27	78
R4年10月	22	81	26	107	11	110	31	19	28	56	30	228	24	91	23	43	23	252	28	62	11	1	27	63
R5年2月	28	71	30	122	24	144	27	79	31	53	29	245	27	95	27	92	28	257	28	199	17	23	31	70

表1-2 小長井側での採苗袋設置効果試験における1袋当たりの平均殻長と生存個数の推移

	小長井・長里・滞筋側				小長井・長里・沖側			
	砂利袋		人工基材		大砂利袋		小砂利袋	
	殻長(mm)	生存個数	殻長(mm)	生存個数	殻長(mm)	個数	殻長(mm)	個数
R4年5月	22	31	17	5	22	32	16	56
R4年6月	19	51	14	11	23	45	17	75
R4年7月	24	45	22	9	26	48	23	65
R4年9月	28	25	21	7	29	33	27	34
R4年10月	31	23	23	9	31	53	26	42
R5年2月	36	27	37	5	28	111	28	67

2) アサリの大量採苗袋での採苗試験(新規分)

(調査方法) 令和3年度までの瑞穂地区で採苗状況を参考に、令和4年度は採苗地として有力な古部の潮位表基準面 (CDL) +80cm、伊古の同+50cm、長浜の同+100cmの3地区で4月に各区100袋の採苗袋(内在砂利:5~6mm、網:60×60cm)を設置し、その後の生存数・成長を調査した。

(調査結果) 伊古の地盤高+50cmにおいて毎回最も多くの生存数が確認され、9月には511個(1袋当たり)、10月も同等の501個、2月は396個であり、この地点は採苗場所・地盤高として最も有望と考えられた。また、2月調査時の平均殻長は古部:23mm、伊古・長浜:21mmであったが、一部のアサリでは3cmサイズがあり出荷サイズに到達して有用性が考えられた。

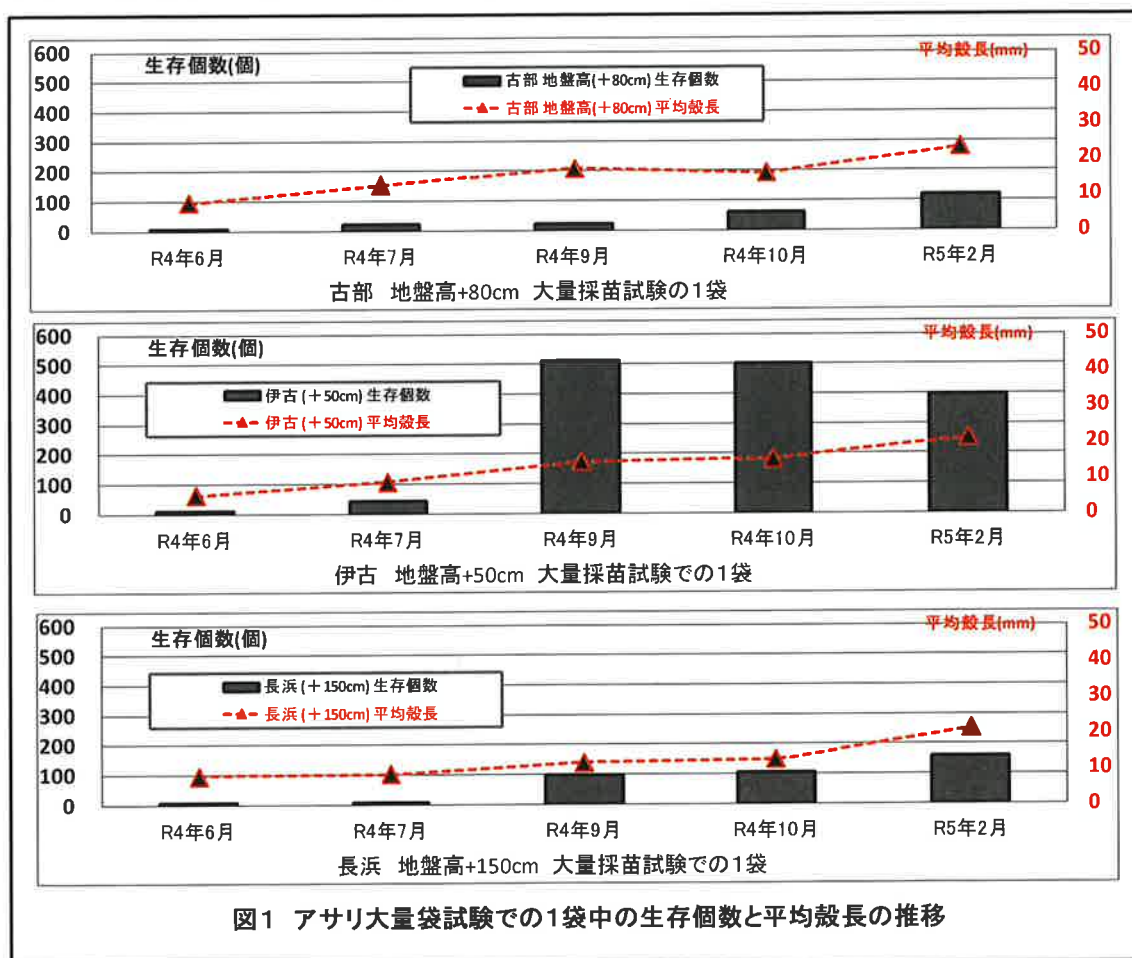


図1 アサリ大量袋試験での1袋中の生存個数と平均殻長の推移

[2] マガキ地種の振り子式バスケット養殖試験

(背景・ねらい) 諫早湾では筏垂下式のカキ養殖業が主幹漁業となっていますが、国見地区は湾口部に位置し、季節風・波浪等で養殖管理のための出港が困難な場合が多く、筏垂下式への着手がためられています。そこで、小長井地区における華漣のバスケット養殖を参考にし、天然採苗のカキ地種種苗を用いて干潮時に陸から徒歩で養殖管理が可能な振り子式バスケット養殖の試験を平成29年度から開始し、令和4年度も試験を実施しました。

(調査方法) 令和3年5月から163連の採苗器材を用い干潟での天然採苗し、同年12月に得られた稚貝約13万個を長浜の干潟で振り子式のバスケット籠に収容して令和4年度の試験を開始した。令和4年4月以降、定期的に籠交換・付着物掃除、選別などを行いながら令和5年3月までの選別結果での成長・飼育数の把握を行った。また、今年度は新たに生産物の出荷方法等の利用に向けた取り組みを開始し、2月以降に生産したカキについて紫外線照射海水に24時間入れたカキの衛生検査を行うとともに、「カキ焼きまつり」でのPR活動や試食試験等を行った。

(調査結果) 夏季までは前年度試験と比べ殻高では約1cm上回っていたが、その後の秋以降の成長が伸びなやみ、2月に選別した大群約2,400個のうち、3月の一部サンプル142個での平均では殻高60mm、殻長38mm、殻幅26mm、殻付き生重量33gで、前年度試験の大群の同月の殻高(56mm)を上回ったが目標の平均40gには至らなかった。40g超えは14%であり、秋季以降の付着物の影響などが重量の伸び悩みにも影響したことなどが考えられた。

2・3月のカキと蓄養海水の衛生検査の結果、生食での出荷を想定しても衛生面の問題は無かった。3月はPRに重点を置いた一般者も含めた評価を得て、身入り・味の評価も良く、kg単価として500円以上の価値と思われた。ただし、漁業関係者からはカキの形状としては殻付きでの大きさとしては小さく、カキ同士の付着により形状の不良、付着物が目立つとのコメントがあった。

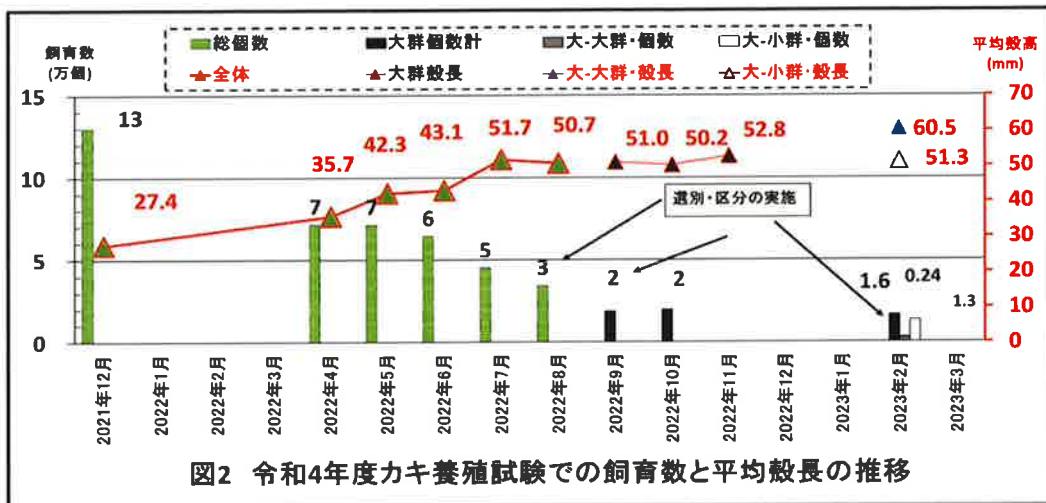


表2. カキ用の蓄養水槽と、カキの衛生検査の結果

検査物	検査種類	検査項目	基準値等	1回目検査結果 結果(採材日)	2回目検査結果 結果(採材日)
水槽海水	細菌検査	①大腸菌最確数	70MPN/100ml 以下	1.8MPN/100ml 以下 (2月6日)	1.8MPN/100ml 以下 (3月9日)
カキ	細菌検査	②細菌数(生菌数)	50,000/g 以下	300/g以下 (1月27日)	300/g以下 (3月9日)
		③E.coli最確数	230MPN/100g 以下	18MPN/100g 以下 (1月27日)	18MPN/100g 以下 (3月9日)
		④腸炎ピブリオ最確数	100MPN/g 以下	3MPN/g以下 (1月27日)	3MPN/g以下 (3月9日)
		⑤腸管出血性大腸菌(O-157)		陰性 (1月27日)	陰性 (3月9日)
	貝毒検査	⑥まひ性	4.0MU/g未満 ※定量限界:2.0MU/g	2.0MU/g未満 (1月27・28日)	※検査未実施
		⑦下痢性	0.16mgOA当量/kg以下	検出されない (1月27・28日)	※検査未実施
	ウイルス検査	⑧ノロウイルス		陰性 (2月7日)	陰性 (3月9日)

(2) 公益目的事業2「ひとが行き交う諫早湾づくり促進事業」

1) 助成事業

諫早湾干拓事業で創出された自然干陸地や調整池等を、あらたな地域活性化の資源として捉え、地域住民・団体が自ら企画した環境美化活動などによる魅力づくり、諫早湾地域の魅力を伝える情報発信等の取組みを公募して対象事業を決定（「3 附属明細書」参照。）し、次のとおり助成を行いました。

ひとが行き交う諫早湾づくり促進事業助成金	助成件数	助成額合計
	3件	2,400,000円

【明細書（助成内容等）】

助成対象者名	事業内容	対象事業費	助成額
本明川を きれいに しゅう会 (構成22人)	自然干陸地除草管理及びコスモスの植栽管理 並びに小学生の種まき体験学習会の開催 【場所】諫早市川内町不知火橋下 (除草及びコスモスの植栽 約2.3ha)	850,000	800,000
黒崎干陸地 を守る会 (構成20人)	自然干陸地除草管理及びコスモス・菜の花の 植栽管理並びに芝生・つつじの管理 【場所】諫早市高来町黒崎地区 (除草 約2.2ha、うちコスモス等植栽 約0.8ha) (芝生 約0.371ha)	1,014,280	800,000
特定非営利 活動法人 拓生会 (構成28人)	自然干陸地除草管理及びコスモスの植栽管理、 散策道の整備及びバリアフリートイレの設置等 【場所】諫早市高来町深海地区(約15.4ha管理) (コスモス植栽 約3ha、バリアフリートイレ 2基、散策道 延450m)	3,880,660	800,000
合計	3件	5,744,940	2,400,000

(3) その他の事業1「水産業経営安定対策事業」

1) 助成事業

漁家の経営基盤の安定のため、漁業後継者等の船舶免許の取得などの技能習得の取組みについて、次のとおり助成を行いました。

技能開発訓練助成金	助成件数	助成額合計
	3件	258,000円

【明細書（助成内容等）】

○助成の内容	*基本手当 2,000円/日 *受講・教材手当 経費の80%以内(上限 80,000円)	
○助成の実績	二級小型船舶免許 3件	助成金合計 258,000円

※ 年齢構成 20才～29才 2件(諫早湾漁協本所 2)
30才～39才 1件(同 瑞穂支所 1)

3 附属明細書

(1) 助成事業並びに調査研究事業の明細

助成事業の内容並びに調査研究事業の成果等にかかる明細は、「2 事業の概要」に記載したとおりです。

(2) 助成事業の公募・事業採択並びに調査研究事業の結果報告・計画策定の方法

助成事業の公募・事業採択の方法並びに調査研究事業の結果報告・計画策定の方法は、以下のとおりです。

『公益目的事業1 関連』

①令和4年度魅力ある諫早湾水産業創出支援助成事業

◆公募期間 令和4年5月9日(月)から令和4年7月14日(木)まで

◆公募方法 当基金のホームページ、諫早市及び雲仙市(以下、「関係市」という。)の市報に公募の実施を掲載し、公募要領を当基金事務所、関係市の本庁及び諫早湾周辺支所に備付け

◆水産振興助成事業採択委員会

応募のあった事業の内容について各委員に報告後、助成事業を採択

○委員会 書面決議の方法による

○委員 長崎県漁政課総括課長補佐(委員長)

同 県南水産業普及指導センター所長

同 総合水産試験場次長兼企画開発推進室長

諫早市林務水産課長

雲仙市農漁村整備課長

当基金専務理事 以上6名

②令和4年度水産振興調査研究事業

◆水産振興調査研究事業検討委員会

前年度の調査研究事業の結果等を報告した上で、これまでの結果や状況を踏まえ本年度諫早湾貝類等増養殖試験計画書を作成。

○開催日時 令和4年4月13日(水) 15時00分～17時00分

○開催場所 諫早市役所会議室

○出席委員等 諫早湾漁協本所 副組合長1名、担当職員1名

同 瑞穂支所 支所長1名、担当職員1名

同 国見支所 理事1名、担当職員1名

長崎県諫早湾干拓課課長補佐

同 漁政課総括課長補佐

同 水産加工流通課課長補佐

同 総合水産試験場 介藻類科長、漁場環境科長・主任

同 県南水産業普及指導センター所長

諫早市 林務水産課長、干拓室長

雲仙市 農漁村整備課参事補・主事

当基金専務理事(委員長)、参事、係長、主任 以上21名

『公益目的事業2関連』

①令和4年度ひとが行き交う諫早湾づくり促進助成事業

- ◆公募期間 令和4年5月9日(月)から令和4年6月30日(木)まで
- ◆公募方法 当基金のホームページ、関係市の市報に公募の実施を掲載し、公募要領を当基金事務所、関係市の本庁及び諫早湾周辺支所に備付け

◆ひとが行き交う諫早湾づくり助成事業採択委員会

応募のあった事業の内容について各委員に報告後、助成事業を採択

- 委員会 書面決議の方法による
- 委員 諫早市干拓室長（委員長）
長崎県諫早湾干拓課長
雲仙市農林課長
諫早商工会議所事務局長
雲仙市商工会事務局長
当基金専務理事 以上6名